



加藤 元の



と暮らして
みませんか

25

今回は「ブラッシングはなぜ必要なのか」について考えてみましょう。

「手入れをする」ことは、犬に快適な暮らしをしてもらうことであり、犬との良いコミュニケーションにもなります。また、ブラッシングすることが、犬の健康増進に役立つだけでなく、皮膚の病気や体表の腫瘍の早期発見につながります。

ブラッシングは特に長毛種に必要で、クシとブラシは、犬の皮膚の性質によってタイプが決まりますから、購入の際はペットショップやペット美容室、動物病院などでアドバイスをもらい、犬種にあ

ブラッシング

健康増進とコミュニケーション

ったブラシを使いましょう。

ブラッシングは運動の後に行います。まず毛並みに逆らってブラッシングし、汚れを浮かします。それから、毛並みに沿ってブラッシングし、汚れやムダ毛を取り除きます。

長毛種の場合、まずクシで汚れを取り、毛並みを整え、もつれた毛をとき、抜け毛を取り除きます。クシは体の下からかけ始め、上へのぼっていきます。長毛種は毛がもつれやすいので、毎日とかしてあげることが必要です。もつれ毛ができてしまうと、とかすときに犬が痛がったり、犬を不愉快な目にあわせることとなります。

毛が多く抜ける、フケが多い、ひっかき傷や血の膿が出ている、皮膚の色が変わっている、こぶやしこりなどがあるなどの場合は、皮膚に関係の深いホルモンの異常、こわいガンや腫瘍などの皮膚病を起こしている証拠で、素人判断や様子を見るなどをしていては危険です。早速、必要な検査を受けて、適切な治療を受けてください。

いったん皮膚病になり、それがこじれると、すぐにはよくなりませんし犬や猫はもとより飼い主も不快です。少しでも皮膚の状態がおかしいと気付いたら、すぐに獣医さんに診てもらいましょう。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)

《産経新聞2004年9月26日掲載》